

# 診療科特集 Vol.4

## 循環器内科

### 循環器内科の特徴

1. 冠動脈疾患に対するPCI治療成績の向上と長期予後の改善に努力
2. 年一回行う長崎PCIライブデモンストレーションで技術向上と若手医師の教育、さらに治療のオープン化
3. 和温療法から両室同期ペーシング治療まで幅広い心不全治療



当院循環器内科はスタッフ4名とレジデント1名からなり、そのうちスタッフの4名全員は日本循環器学会の循環器専門医です。

循環器内科には年間約750名の患者さんが入院しその約6割が急性心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患患者さんです(表)。

循環器内科医師が常時on-call状態で待機しており、24時間いつでも心臓カテーテル検査が可能です。また同時に当院の救命救急センターや心臓血管外科さらに放射線科や臨床工学士と密接な院内連携をとっています。

平成28年 主な疾患別入院患者数

疾患名	症例数	死亡退院数
1) 心不全	93	2
2) 急性心筋梗塞	47	4
3) 陳旧性心筋梗塞	112	0
4) 狭心症	298	0
5) 拡張型心筋症	4	0
6) 肥大型心筋症	8	0
7) 弁膜症	15	2
8) 頻脈性不整脈	43	0
9) 洞不全症候群	11	0
10) 完全房室ブロック	15	0
総計	646	8

### 長崎PCIライブデモンストレーション

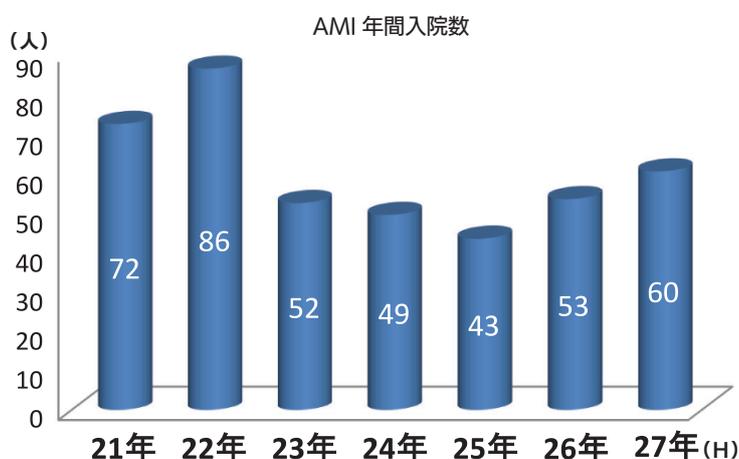
当院は県下でも少ない日本心血管インターベンション治療学会の研修施設で、県内でもっとも早くから認定されています。そのためPCIの治療成績向上のみならず、若手医師の教育や指導を行わなければなりません。その一環としてPCI治療で高名な先生方を当院にお招きし、18年前か

ら年一回長崎PCIライブデモを行っています。ライブデモの目的は①医師や看護師の治療技術や考え方の向上②かかりつけ医の先生方との連携(地域密着)③患者さんご家族も含めた医療のオープン化です。昨年は9月10日に行いました。

## PCI治療成績の向上、長期予後の改善

長崎県での急性心筋梗塞(AMI)の実態を把握し、治療効果などを評価する目的で、長崎県医療政策課と長崎県医師会からの委託を受け、長崎大学病院循環器内科を中心に17の県内医療施設へ受診したAMI患者さんの登録を行っています。

2014年9月から2015年6月末までの10カ月間に、県内では535名のAMI患者さんが入院しました(中間結果)。年間発症数に換算してみると年間642名のAMI患者さんが17医療施設を受診し、治療を受けていることとなります。



4	5	2	4	3	4	2	人
5.6	5.8	3.8	8.1	6.9	7.5	3.3	%

AMI院内死亡数(上段)と院内死亡率(下段)

\* AMI院内死亡率は7年間の平均で5.9%

院内死亡率は7.3%で全国平均に近い死亡率でしたが、離島を多く持つ長崎県としては悪くない数値と考えられます。ちなみに当院でのAMIの院内死亡率はここ最近7年間の平均では5.9%(図)でした。

複雑冠動脈病変のPCIの治療にはロータブレード・経皮的冠動脈粥腫切除術(DCA)・エキシマレーザーなどを使用し、中でもエキシマレーザー(写真)の症例数は約120症例で日本でもトップレベルです。



エキシマレーザーを使用するPCI



エキシマレーザー

## 和温療法から両室同期ペーシング治療まで幅広い心不全治療

高齢化に伴い日本全体で心不全患者さんが増加しています。重症心不全患者さんには、内服強化療法でもコントロールできなければ、両室同期ペーシング治療や和温療法(写真)を行っています。積極的に和温療法を行っているのは県内でも当院のみです。和温療法の対象は難治性心不全患者さんだけでなく、血管障害による難治性の下肢潰瘍の患者さんや難治性リウマチ性多発筋痛症の患者にも有効です。

循環器内科5名の医師に担当研修医も加え、毎日カンファランスを行って治療方針を決めています。どのような患者さんにも受診してもらえるような敷居の低い循環器内科で、かつ丁寧な質の高い医療で地域に貢献していきます。



和温療法